

児童発達支援事業 職員自己評価結果

事業所名	北本市立児童発達支援センター		公表日		令和8年 3月 1日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	100%		厚生労働省の設備基準を満たしたペースを確保しています。	
	2	利用定員や子どもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	100%		厚生労働省の人員配置基準を満たした職員数を配置しています。	大人の働きかけと共に自発的な行動を促すことも大切に、活動内容等により職員の配置を工夫していきたいと思います。
	3	生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、児童発達支援センターの設備等は、子どもの特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	100%		室内に余計なものは置かない、掲示しないようにし、児童が活動を意識しやすいように工夫しています。	今後も、活動の妨げや危険に繋がらないように、物の配置等には注意していきたいと思います。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子どもたちの活動に合わせた空間となっているか。	100%		室内は清潔に保てるように努めています。子どもたちが活動しやすい空間をとるよう心がけています。	
	5	必要に応じて、子どもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	90%	10%	必要な場面では、他の部屋を使用して子どもの状態に合わせた対応ができるようにしています。	
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	100%		計画、行動・実行、評価、改善という過程を心がけて、日々、療育やその他の業務を行っています。	
	7	毎年行っている自己評価で、保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100%		毎年、評価表で保護者の意向等を確認し、療育の検討の機会を設けています。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100%		職員間で意見を出し合えるよう心がけ、業務改善につなげています。今年度は、連絡帳の記入や日誌等の記録の時間を確保できるような業務改善を行うことができました。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	70%	20%	第三者評価は行っていません。	今後、第三者からの外部評価の実施について検討していきます。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会が確保されているか。	100%		職員が研修を受ける機会を確保できるように努めています。	正規職員以外の職員に、研修の機会をどのように設けていくか課題です。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	100%		ホームページに支援プログラムを掲載しています。	
	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、個別支援計画を作成しているか。	100%		保護者からアセスメントを行い、保護者のニーズに合わせた個別支援計画を作成するよう努めています。	
	13	個別発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	100%		個別支援計画は、会議の中で児童発達支援管理責任者の他に保育士、言語聴覚士、公認心理士等が子どもの状態に合わせた計画を検討し作成しています。	
	14	個別支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	100%		子どもに関わる全職員が個別支援計画を共有し、個別支援計画に沿った療育内容で支援を行っています。ケース会議、職員会議、ミーティング等で子どもの状態・変化・対応を共有しています。	
	16	個別支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	100%		児童発達支援ガイドラインに基づいて個別支援計画を作成し、子どもに合わせたねらいや支援内容を設定しています。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	100%		クラスの活動、2クラス合同での活動、グループに分かれての活動、行事等のプログラムは、職員がチームで行うよう努めています。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	90%	10%	積み重ねることも大切にしながら、季節や子どもの状態に合わせた活動を提供するように努めています。	子どもに合わせた遊びについて、さらに工夫しながら提供できるように努めていきたいと思っています。

	19	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ、個別支援計画を作成し、支援が行われているか。	100%		小集団での活動を基本としながら、必要な場面では個別の対応で支援を行っています。	
適切な支援の提供	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	90%	10%	その日の支援内容、役割分担等を共有し、連携して活動に応じた支援が行えるように努めています。	業務の中で時間を作りながら、気づいたこと等を職員間で伝え合い連携した支援に努めたいと思います。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	80%	20%	職員間での打ち合わせや支援後の振り返りで共有を図るように努めています。	業務予定が詰まっている時でも、振り返りの時間が取れないことがないよう努めたいと思います。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	100%		必要事項を漏らさず記録することを徹底し、支援の検証につなげています。	
	23	定期的にモニタリングを行い、個別支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	100%		個別支援計画については、必要に応じて見直しすることも行っています。	
	24	関係機関との会議等に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	100%		関係機関の会議等は、子どもの状況を理解した職員が出席しています。	
関係機関や保護者との連携	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	100%		各関係機関との連携に努めています。医療機関との連携・相談を行うことができました。	
	26	併行や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	100%		併用される保育園・幼稚園と連携を取りながら、支援内容の共有に努めています。インクルージョンでの支援が広がるように努めています。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	100%		就学時の移行の際には、保護者の希望により、児童発達支援センターの様子を「申し送り」という形で書面と共に伝えさせていただきます。	
	28	地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	90%	10%	それぞれの事業所と連携を図ることは行っていますが、地域全体の事業所と連携しながら質の向上を図ることはできていないのが現状です。	今後は、地域の事業所との連携を深め、質の向上に向けた取り組みができるように努めていきたいと思っています。
	29	質の向上を図るため、職員を外部研修に参加させているか。	100%		職員がより多くの外部研修に参加できるように努めています。	
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	100%		自立支援協議会や子育て会議等への参加を積極的に行っています。	
	31	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	100%		中央保育所と交流を行い、一緒に遊びを楽しむ機会を作っています。	
	32	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	100%		保護者の方と子どもの状況等を伝え合うことを大事にしながら、子どもの課題についても共通理解できるように努めています。	
	33	家族等の参加できる学習会や情報提供等を行っているか。	100%		子どもへの関わりについて、児童発達支援センターと家庭と一緒に取り組めるような内容の学習会や情報の提供を行うように努めています。	
	34	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	100%		入所の際に行う重要事項説明書の説明に、支援プログラムや利用者負担額等が含まれています。	
保護者への説明等	35	「個別支援計画」を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	100%		「個別支援計画」の作成・更新の際に保護者と面談を行いながら、保護者の方のご意向を確認しています。	
	36	「個別支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から「個別支援計画」の同意を得ているか。	100%		「個別支援計画」の作成・更新の際に保護者と面談を行い、支援内容を説明し同意を得ています。	
	37	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	100%		保護者の方からの相談に対し、面談や家庭訪問を行う等して、助言や支援を行っています。職員間で相談内容を共有し、家庭と連携して支援していけるよう努めています。	
	38	家族の支援、きょうだいの支援をしているか。	100%		家庭の状況を聞きながら、子どもの家族、きょうだいも含めて支援が行えるよう努めています。	
	39	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	100%		相談や申し入れについて、できる限り迅速に話ができる場を作れるように努めています。	
	40	活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	100%		コドモンを利用して、保護者へ行事のお知らせ等を配信しています。	

	41	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	100%		個人情報の取り扱いを留意することは、全職員(実習生等も含め)に周知・徹底を図っています。	
保護者への説明等	42	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	100%		わかりやすい伝え方を配慮・工夫し、保護者の方にはコドモン・手紙の配布・職員が口頭で伝える等、情報の発信を行っています。担任や児童発達支援管理者が保護者の方と直接話をしながら、家庭での様子や保護者の方の思いも聞かせていただいています。	
	43	児童発達支援センター地域に開かれた事業運営を図っているか。	70%	30%	地域に根差した運営を心掛けています。	地域の方と共に行う事業内容の検討は、今後の課題です。
非常時等の対応	44	安全計画、非常災害対策計画、自然災害発生時の業務継続計画、感染症発生時の業務継続計画等を策定し、職員や保護者等に周知しているか。(本棚に設置)	100%		保護者の方が自由に手に取れるように設置し、周知を図っています。	更に保護者の方への周知に努めたいと思います。
	45	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	100%		毎月、子どもが参加して避難訓練を行う共に、非常災害時に備えた職員の訓練、保護者の方と共に行う引き渡し訓練も行っています。	
	46	事前に、服薬やてんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	100%		児童の服薬や症状については、保護者の方と情報共有させていただき、変更があった場合は、その都度記録を追記し、職員が周知しています。	
	47	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	90%	10%	食物アレルギーがある子どもへの対応は、職員が間違いなく行動できるようマニュアル化し、医師の診断の基、安全に給食等が提供できる体制を整えています。	
	48	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	100%		安全計画に基づいた研修・訓練を行い、安全管理を行っています。	
	49	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	100%		避難訓練の実施の周知と、引き渡し訓練を行い、家庭と連携した取り組みを行っています。	
	50	ヒヤリハットを児童発達支援センター内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	100%		ヒヤリハットをその都度職員に報告し、再発防止に努めています。	
	51	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	100%		虐待防止の外部研修を受けることや園内研修で意見を出し合う等で、職員全体で虐待防止に取り組んでいます。職員虐待防止委員会では毎年、取り組みについて報告を行っています。	
52	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、「個別支援計画」に記載しているか。	90%	10%	身体拘束が必要な子どもがいる場合には、職員で必要性を十分に検討した上、保護者の方の了承を得て個別支援計画に記載し実施を行います。		